家庭数

いつもずっとみんなだいすき

泉台小学校　学校通信　　１１号
発行責任　校長　福　田　哲　也
発 行 日　平成２７年11月５日

平成27年度　全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成２７年４月２１日（火）に、６年生を対象として、「教科（国語，算数，理科）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。
この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。
なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

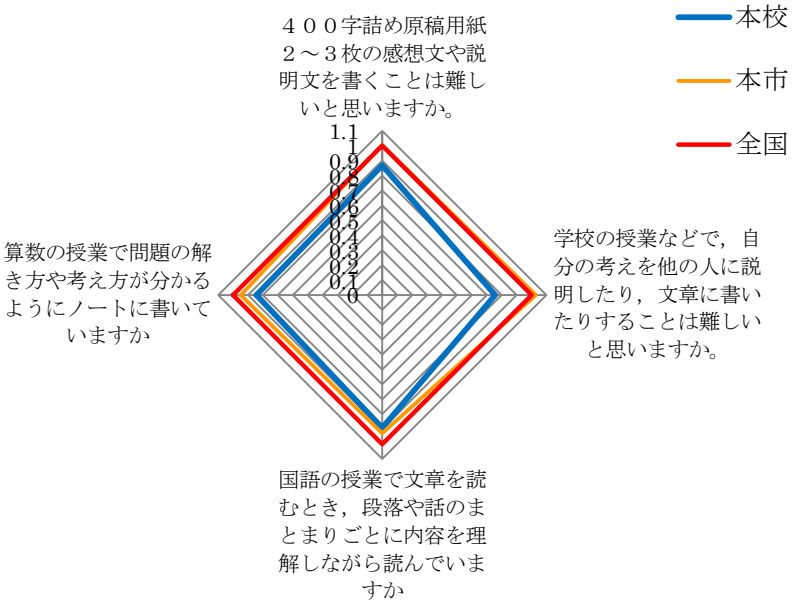
1. 教科に関する調査結果の概要

①　学力調査結果と分析

教科・区分	学力調査の分析（傾向や特徴）	学力の状況
国語A	・「読む能力」は定着しているが、漢字の読み書きに課題が見られる。継続して指導していく。 ・基本的な漢字の読み書きの問題が全体的に全国平均を下回っていた。特に「浴」は正答率が低かった。	全国平均正答率との比較 下回っている
国語B	・様々な活動の中に「書く」活動を多く取り入れ、個に応じた指導をしてきた結果、「書く」問題の正答率が全国平均を上回った。また、文章で記述する問題では無解答者が減っている。 ・「たがいにゆずり合って解決すること」を別の言葉で表現すると「折り合いをつける」という言葉になることを説明文から読み取る問題の正答率が低かった。	全国平均正答率との比較 上回っている
算数A	・数と計算、量と測定、図形、数量関係すべての領域において全国平均を上回っている。特に数と計算領域の正答率が高かった ・二等辺三角形の底角の大きさを求める問題は正答率が低かった。	全国平均正答率との比較 上回っている
算数B	・全体的に無答率が全国平均より低く、粘り強く取り組むことができるようになっている。 ・数と計算領域はよく理解できているが、図形領域はやや苦手な傾向にある。 ・ボール投げのライン引きで正三角形の性質を利用して位置を求める問題、家から店までの道すじを平行四辺形と捉え道のりが等しくなるわけを記述する問題は正答率が低かった。計算領域はよく理解できているが、図形領域はやや苦手な傾向がある。	全国平均正答率との比較 上回っている
理科	・全国平均をわずかだが下回っている。記述問題に関しては、粘り強く取り組んでいる。 ・知識・理解についての正答率は高く、科学的思考も全国平均並みである。観察実験の技能について、体験を通して定着できるように指導する必要がある。 ・顕微鏡の名称や操作方法に関する問題、電磁石の強さを同じにする電池のつなぎ方を考える問題は正答率が低かった。	全国平均正答率との比較 下回っている

②　学校における学習状況に関する調査結果と分析

・本校は国語を中心として、どの教科・学習においても、自分の考えを書く活動を位置づけ取組んできた。その成果が表れ、「800 字～1200 字程度の文を書く」「自分の考えを説明したり、書いたりする」という問題に対して苦手意識がなくなってきている。
・段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読んでいる児童は少ない。考えを書く活動を継続するとともに、順序立てて考えを整理していく活動にも重点を置いて授業を行っていく必要がある。
・「算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている」と自覚している児童の割合が少ない。自分の考えを理由を添えて書く活動を多く位置づけていく必要がある。



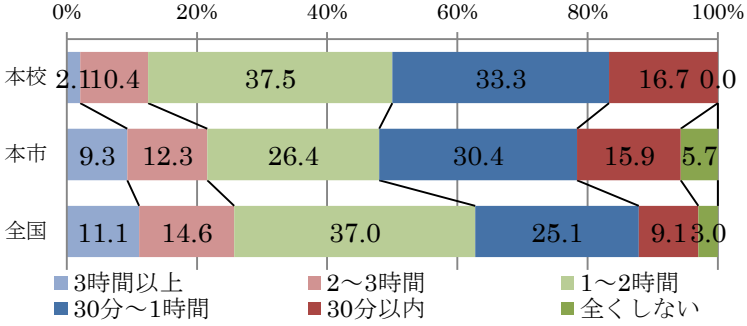
2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

① 家庭学習習慣に関する調査結果と分析

・全体的には家庭学習の習慣化が図られてきている。しかし、学年に応じた時間の家庭学習を行う児童の割合は全国平均をやや下回っている。そこで、本校での家庭学習時間の目安でる、「１０分×学年」の定着をより一層図る必要がある。また、学習に対する構えとして、自分で計画を立てて勉強をしている割合や復習を行う児童の割合が全国平均を下回り、家庭学習に対する主体的な意識が薄いことが課題である。

・１日３０分以上の読書習慣の定着は全国の平均値と同等である。豊かな表現力や語彙の獲得のためにも、読書習慣の定着を図る取組を進めていく。

授業時間以外に，普段(月曜日から金曜日)，１日当たりどれくらいの時間，勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含みます。)



② 生活習慣等に関する調査結果と分析

・朝食を毎日食べない児童が全国平均より高く、１日あたりにテレビやビデオ等に接する時間も長いなど、基本的な生活習慣がなかなか定着しない傾向にある。家庭の協力が一層必要であることが考えられる。

・「学校のきまりをだいたい守っている」と答えた児童は全国平均並みだが、「必ず守る」と答えた児童の割合は全国平均より低い。規範意識を育てていくことが必要である。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

◎ 基礎的・基本的な学力向上のための特設時間の設定や少人数指導の取組
- 朝の学習の時間に取り組む内容を曜日ごとに決め、全校で一斉に実施。
- 給食準備時間の１５分を利用して、低学年を中心に「こつこつ道場」を設定し計算や漢字の定着を図る。
- 担任外教諭による少人数指導や個別指導を計画的・継続的に実施。

◎ 「自分の考え」を書くことの常時位置づけ
- 教科や学習内容に応じて、課題を解決する段階や学習のまとめの段階で自分の考えを書く時間を位置付ける。
- 連絡帳に２，３行程度の「一言日記」を書くようにする。

◎ 過去問題、学習プリントの活用
- 単元や学習のまとめに学習プリントを活用し、基礎基本の定着を図る。
- 過去の全国学力テストのＡ問題（基礎基本の問題）を長期休業期間中の「宿題」として取組む。
- 過去の全国学力テストのＢ問題（活用力をはかる問題）を活用し、思考力や考えを構築する力を高める。

◎算数科においての既習学習の確実な定着の取組（毎年、三学期）
- プリントを活用し、定着の低い学習内容を調査する。
- 定着の低い学習内容を中心に重点単元を設定し、少人数指導で内容の定着を図る。

〇語彙の獲得と活用力を高める取組
- 新聞記事などを活用し、普段児童の生活では出てこない言葉に触れさせる。
- ことわざや故事成語を使っての短作文づくり。

② 家庭生活習慣等に関する取組

◎ 家庭学習の習慣化と内容の改善
- 発達段階に応じた系統的な家庭学習時間（１０分×学年）や内容の設定。
- 中学校区で「家庭教育の手引き」を作成し、家庭に配布することで、児童の取組に対する保護者の支援を促す。
- ３年生以上の児童には自主学習ノートの活用を位置付ける。
- 「家庭学習チャレンジハンドブック」を活用して、学級ごとに家庭学習について考える時間を持ったり、家庭学習記録表を作成し毎月学力向上担当者がチェックしたりすることを通して、家庭学習の習慣化をはかるようにする。

◎ 学力テストや全国学力・学習状況調査の課題などを保護者へ周知
- 学級懇談会や個人懇談会　・学校便り　・学校ホームページ